

うしろだに

## 後谷ダムで秋の動植物観察会

柏崎周辺農業水利事業所 調査設計課

平成26年10月23日(木)に後谷ダムの環境配慮エリアにおいて、柏崎市立二田小学校の4年生32名と、動植物の観察会を行いました。

後谷ダムでは、建設時に動植物の移植を近隣の小学校に声をかけて行っており、ダムの完成後も、移植した動植物の生息状況を確認するための観察会を毎年続けています。今年の6月18日には、児童たちと夏の観察会を行っており、今回は秋の観察会として、動植物の季節の変化を観察してもらいました。

まずは、保全エリアに生息する「ひっつき虫」探しからスタートです。「ひっつき虫」と言っても、本当の虫ではなく、体に付く草の実のことで、保全エリアには5種類が確認されています。児童らは、これまでの体験から「ひっつき虫」のことを知っていて、「コレはひっつくよ!」「あと1種類!」と積極的に秋の草花を分け入って探していました。その後、見つけた「ひっつき虫」をルーペで観察してスケッチしながら、「ひっつ」く仕組みを考えてもらいました。専門家から、「ひっつき虫」のそれぞれの名前と付着する仕組みについて教えてもらうと、児童たちは頷きながら、記帳していました。



「ひっつき虫」を探せ!



ひっついた虫をルーペで観察してスケッチ



「ヌスビトハギを見つけた人は~?」



ノハナショウブの  
花(左:6月)と実(右:10月)

続いて、移植した保全エリアの希少種で夏に観察した、ノハナショウブ、ヒツジグサ、メダカの生息状況などを調査しました。調査の結果、夏季とは異なり、真っ黒な実を結んだノハナショウブや、一回り大きく成長したメダカ、さらには秋にしか見られないカマキリの卵鞘(らんしょう:たくさんの小さな卵が厚いスポンジ状の物質につつまれたもの)を観察することができました。

まとめの報告会では、「ひつつく仕組みにびっくりした」、「秋とはちがう植物を見つけられて良かった」と児童たちから多くの感想をもらいました。後谷ダムにおける夏と秋の2回の観察会を経て、児童たちは、地域の貴重な動植物について学習し、より身近に感じる事ができたようです。今後とも当事業所では、後谷ダムと周辺の自然環境が地域の財産として親しまれるよう、観察会を続けていきたいと考えています。

(原稿作成: Y)



メダカは水温が低いと湖底に隠れます



ヒツジグサは咲いたかな?